

具体宣言に「精神を高めることは、物質を高き精神の場に導き入れることだ」と言う箇所がある。「具体」の頃の僕は、自己表現の材料としては、油絵具によることが多かったが、1973年頃からは、主として、糸と布を使用するようになった。それは、材料も、針で縫う行為も、僕にとっては、身近で、簡潔になると考えられたからであった。だがその制作にかかってみると、油彩の時よりも、四苦八苦の葛藤であった。これは、僕に与えられた宿命とも言うべきか。それだけに、創造性による満足感は大きかった。今日まで、失敗をくり返しながらも、性こりもなく続けてこられたことは、計算事でない、作家にとっての、この冥加によるものであろう。

「第1回ニードルアート展」図録(和歌山県立近代美術館、1987年)掲載

注:縫いの制作開始時期については上前日記に以下の記載がある。

[1988.1.6 縫いの制作を始めた年を調べるため日記をみると1975年8月21日とあった。]